

○ワークショップ「消費者行動ワークショップ」

開催責任者 ビジネス研究科 石垣智徳

湯本祐司

2013年3月6日

3月7日

南山大学名古屋キャンパス J棟 4階 415 会議室



ワークショップは以下のとおり、開催された。

◇報告者および題目

3月6日(水)

1. 里村卓也 (慶應義塾大学商学部)、Michel Wedel (University of Maryland)、
Rik Pieters(Tilburg University)
“A Visual Copycat Warning System”
2. 鶴見裕之(横浜国立大学経営学部)、増田純也(株式会社電通マーケティングインサイト)、
中山厚穂(首都大学東京大学院社会科学部)
「マス・コミュニケーション、Web コミュニケーションが販売実績に与える影響分析」
3. 中山雄司(大阪府立大学経営学部)

「マーケティング・サイエンスにおけるデータ分析演習：R Analytic Flow を用いた試み」

3月7日（水）

1. 荒木長照（大阪府立大学経営学部）、辻本法子（桃山学院大学経営学部）
「旅みやげ開発のギフト・マーケティング」
2. 中原孝信、前川浩基（株Magne-Max Capital Management）
「センチメントと影響伝播モデルを用いた Twitter データの解析」

◇ワークショップの討論内容

本ワークショップは、広く消費者行動に関するモデル分析に関する。研究報告ならびにディスカッションを行った。例えば、里村氏他のモデルはベイズ推定モデルを利用した偽ブランドか否かを判定する基準に関する発表である。

ビジュアル情報をぼかす（あいまいに）した場合と鮮明（エッジを立てた情報に変換）にした場合を考えており、人間のビジュアル情報に関する反応の程度を評価することから目的である「どこまで真似すれば偽物扱いされるかの基準」を見極めようとするものである。現時点では、まだ現実的な商品による実行ではなく、画像加工による映像の実験段階であったが非常に興味深い研究であった。

◇研究成果発表

辻本法子・石垣智徳、「商品の購買パターンと知覚リスクに関する研究」、『南山経営研究』第27巻第2号、2012年10月